



小樽市政9策=救策

小樽市と市民のために、市政の限界を突き抜けます

〈憲法を生かし「市民中心」の市政で「全市民の幸せ」実現！！〉

現実の推進優先順・分野別 9 策

[財政負担ゼロから少額支出まで、できることはたくさんあります。そこが「みんなの小樽」政策のすごさ！！]

1. かせぐ 3者1体

(市民・事業者・市)で豊かな小樽！！

- ①1000万人歓迎の観光都市小樽で生きる 最も可能性大の方針
- ②中小企業・商店街に改革エンジン導入で限界を超えた成長
- ③後志19町村との一体的新広域圏活動で輝く小樽・後志
(ローコスト行政のためにも、まず北後志1市4町1村の団結)

2. 人口減ストップ！！

※これの実行力は、市職員の団結と市長の市役所組織運営力から。
市民、企業、商店などの総力で。そして市長が走り回る！！

3. 「子どもすくすくのびのび」で 小樽市民生活も安全・充実！！

※「稼ぐ小樽市政」「人口減ストップ」で実現できます

- ①未来に羽ばたく街・小樽 《泊原発は廃炉》
- ②海と港の街・小樽 《新日本海時代を目指す》
- ③新・小樽市民憲章の制定

★ホームページ「みんなの小樽」に、ご質問・ご意見をお寄せください。

★以上の9策は総論です。各論については下記事務所にご請求ください。

実行力・実現力が違う！！

《会員募集しています》

明るく元気なみんなの小樽をつくる会 代表 鳴海一芳

事務所〒047-0155小樽市稲穂2丁目14番12号 電話 080-5477-2129

<http://www.mirai-kita.net/>

メール narumi@mirai-kita.net

小樽市政 9 策=救策各論目次

=小樽市と市民のために、市政の限界を突き抜けます=

1 人口減をストップ！！

※人口減に確実な歯止め策を実行します。出生減、社会減の原因を細かく探り、市政としての対策を講じます。「かせいだ」お金は、ここに重点配分します。

2 入りこみ観光客数1000万人の観光都市づくり／

観光都市で生きる覚悟の市政

※何回も訪ねたくなる（リピーター増）、魅せられる街・小樽を目指します。

3 中小企業に重点をおいた振興策と誘致策

※中小企業こそ小樽企業の基盤です。

銭函工業団地、空き店舗、空き住宅の活用促進と売れる商店街づくり。

4 かせぐ小樽市政

※ローコスト市政運営を目指し、チャレンジ、進取の気風を醸成し、中小企業振興策を「かせぐ市政」で雇用増と税収増に導きます。

5 子どもはみんなの宝

※のびのび・すくすく安全安心の街づくりを目指します。市民生活の原点です。

6 後志19町村との協力連携関係の強化で小樽もにぎわい

※新広域行政（従来からの飛躍）の推進で、後志・小樽の未来を切り開きます。

7 未来に羽ばたく街・小樽

※泊原発を廃炉にして、歴史と文化が香る、命と健康を大切にする小樽。

8 海と港の街・小樽

※北前船の歴史を想起し、海と港から全国の港街と世界を展望する。

9 新・小樽市民憲章をみんなで作る

※現在と未来を見据えた小樽市民の願いと誓いを市民の力でつくる。

1 人口減をストップ（各論1）

※人口減に確実な歯止め策を実行します。出生減、社会減（特に市外転出）の原因を探り、市政としての対策を講じます。

- ①「強力除排雪」で高齢者も安心、「水道代等の値下げ」など、住み続けたいくなる市政
- ②安心出産、子育て環境、保育園、教育、学力向上、自立支援など充実をはかる
※ネウボラ（妊娠から出産、母子と家庭を就学まで支援する制度）導入の検討
- ③札幌圏への通勤を考慮した街づくり（ベッドタウン機能の強化）
- ④空家の活用で、「お試し小樽ライフ」を体験してもらう
- ⑤国立小樽海上技術学校の存続発展をはかる
- ⑥学生寮の誘致及び学生アルバイトの職域拡大をはかる
- ⑦大学（例えば極東大学（仮称））の誘致
- ⑧新生児の家庭（各家庭1冊）に育児書のプレゼント
- ⑨移住希望の母子・父子家庭への優遇策（職、保育園、住宅の世話等）
- ⑩外国人移住者に優しい市政（生活ガイドブックの配布など）と街づくり、
歓迎する市民意識へ
- ⑪若者の仲間づくりと「婚活」の支援
- ⑫「里親」制度の活用と三者1体の支援体制作りをする
- ⑬「かせぐ小樽」政策で雇用の確保、働く場所作り
- ⑭Uターン、Iターン、Jターン、海外からの定住促進をSNS活用で広げる

2 入り込み数1000万人の

観光都市づくり (各論2)

※何回も訪ねたくなる、魅せられる街・小樽を目指します。

観光都市で生きる覚悟の市政

- ①DMO法人の発足へ向け地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人（観光庁所管）
- ②高島、祝津地区の住環境を守り、水族館、ニシン御殿などの観光受け入れを強化
- ③3号ふ頭を再開発しクルーズ船の受け入れを増やし、街なかへの観光客の流れを作る
- ④航海の楽しみを訴えるなど、フェリーの観光客の利用を増やす
- ⑤観光産業・関連事業を有機的に結び付け道外・外国からの観光客1000万人の達成（**値目数標：入り込み数1000万人**）
 - ※再訪者（リピーター）の増大を図る。その肝は満足度の高い接遇（おもてなし）
 - ※具体的なイメージ冬期の観光客の誘致（市内の3スキー場の活用、冬山体験など）、北運河の活用、手宮線の活用、総合博物館の活用（手宮線と総合博物館で機関車を走らせることはできないか、カシオペアの展示はできないか）、オタモイ海岸の修復・活用、赤岩と遊歩道の活用、文学散歩、白樺樹液採取体験、ライブハウスの活用、ナイトタイムを楽しめる繁華街の開発など
- ⑥民宿・民泊の活用（※条例によるルール作りが必要）
- ⑦道の駅の新設、オートキャンプ場の拡充及び道路の改善等により車による観光客の満足度を高める
- ⑧駐車場の駐車料金の適正化を目指す
- ⑨公共トイレ等の改善及び観光関連施設のトイレの改善をはかる
 - ※関連施設の改修時には補助金を出すなどの促進策をとる
 - 利用者の多い場所のトイレにはオストメイトを設置する
- ⑩海釣り公園の建設及びバーベキューのできる公園を増やす
- ⑪サイクリングロード・ランニングロードの拡充をはかる
 - ※陸上部等のキャンプ地誘致に結び付ける
- ⑫新幹線の開通に合わせた対策の準備を進める
- ⑬街のバリアフリーを推進する。（国交省、道との連携で、歩行者優先で交差点も歩車分離を推進する）
- ⑭堺町や色内など市内各所への「周遊観光」を促進する（周遊観光域の拡大を順次進める）
- ⑮「街並みは産業・街並みは分化」堺町から手宮までの2.5キロを大正の街並みに
- ⑯900人の小樽案内人の活躍
- ⑰小樽観光の原点「小樽運河」を、歴史と文化と市民力の面から、もっと光を当てるため、「記録と記念」の碑を建立します（募金活動に依る）
- ⑱お土産の小樽生産品を増やす政策
- ⑲長期滞在型の新たな観光スタイル（街なかの貸別荘）の提案

- ⑳小樽にも後志にも北海道にも、カジノに反対します
- ㉑ギャンブル依存症の実態調査をし、立ち直りの支援をする
- ㉒消防犬・文公は日本1の名犬。「文公祭」で手押しポンプ大会の提唱
- ㉓魅力ある食文化の一層の向上
 - ※寿司をはじめあんかけ焼きそばまで、更に名物料理の開発をはかる
 - ※札幌圏最大の「屋台村の街」をアピールする
 - ※飲食業の支援振興策を関係団体と協議し具体的な成案を得る
- ㉔景観の向上と災害時の安全確保のため電柱の地中化を促進

3 中小企業に重点をおいた

振興策と誘致策（各論3）

※中小企業こそ小樽経済の基礎です。銭函工業団地、空き店舗、空き住宅の活用促進と売れる商店街づくりを目指します。広い空間を安価に提供。首都圏・本州では困難な広大スペース使用の事業、芸術活動、スポーツなどに利用をすすめる。

- ①「人手不足」に対応するために、定年退職者の就活の促進、女性の活躍及び外国人労働者の雇用など、具体的な支援策を検討推進する
- ②中小企業振興基本条例に基づき、具体的な政策を策定する
- ③空き店舗、空き住宅の活用と全国へ向け発信する情報整備事業
※とりわけ、近年のLCCの飛躍的利便性のアップや12年後の新幹線開通も強調する。
- ④小樽商大生（4年生）のレンタル制の導入（準・臨時の社外取締役にも）
- ⑤小樽在住の大手・中堅企業のOB・OGの相談員（ボランティア）の活用
- ⑥銭函地区をはじめ、市内への企業の誘致をはかる
※空間と土地の狭さの課題を抱えている企業にアピール
- ⑦市場（いちば）文化の保存及び発展をはかる
※パリの蚤の市などの例を参考にしながら、小樽商大とも連携し新たな市場文化の創造をめざす
- ⑧ウイングベイの活用をはかる
※利用コンペなどを開催し、空きスペースを埋める営業活動を支援する
- ⑨農漁業の安定的発展をはかり新規従事者を増やすなどの努力をする
※ミニトマト栽培やホタテの稚貝など成功事例を参考にする
- ⑩水産加工業などの原料製品の不足問題などの対策を関係者と協議する
- ⑪後継者難企業に「半年～1年のお試し就職」「お試し入社」「お試し弟子入り」（インターンシップ）制度など、職安と連携して対策を講じる。市外からの求職者には、小樽の魅力、住みやすさ、四季の充実した楽しみ、婚活など「総合優位」の情報を発信する。
- ⑫小樽・後志中小企業「100年の計」を視野に、調査研究のための協議会を作る
※後志19町村との相互努力で、小樽市内に「後志ショップ」を開き、後志にあって小樽にないものを持ち込み、小樽にあって後志にないものを持ち出す。（売り込む）

4 かせぐ小樽市政（市長直轄事業）（各論4）

※ローコストの市政運営を目指し、チャレンジ、進取の気風を醸成し、上記3の振興策と併せ雇用増と税収増に導きます。

※市長はトップセールスに頑張ります。

- ①市役所内に蓄積された「経営資源」（情報/資料/データ/人脈など）を発掘し、それらの活用ノウハウと支援をする
- ②商品の売り込みのために、〈共同営業会社〉を作り、首都圏、京阪神、名古屋圏など全国へTOPセールス活動を展開する。後志の企業にも活用を呼びかける。
市役所で培われてきた全国強力ネットワークを活用する
- ③商工会議所等関係機関と協力し、各商品の改良、個別マーケティング政策コンペを行う。
「後志ショップ」の利活用を全市的に取り組む。
- ④商工会議所や中小企業同友会と共催して「攻めの小樽商人塾」を開催する
- ⑤「マーケティング理論」を活用して、小樽の商品や観光のブランド強化とイメージアップで全国に拡散する
- ⑥東京小樽会や関西小樽会の協力を求め、小樽製品の販路拡大をする
- ⑦商店街の空き店舗などを利用して、「起業実験」をする
- ⑧大がかりな小樽物産展を適当な時期に開催する
- ⑨市営祝津マリーナを始めとした海洋施設を活用する
- ⑩ Made in OTARU 愛用運動をすすめる
- ⑪自治体財政が豊かな全国の事例を研究する

5 子どもはみんなの宝（各論5）

※のびのび・すくすく安全安心の街を目指します。市役所の有する関連機能をフルに活用して、子どもたちが健全に社会に育つようにします

- ①教員の負担を減らすために、少人数学級の実現とサポート教員の充実をはかる。
あわせて子どもたちの学力の向上と運動能力・体力の向上に資する
- ②子育て支援の充実（中学生までの医療費の無料化、小学入学までの子育て支援金の支給、育児ノイローゼのカウンセリング等の人員確保、必要な保育所等の確保）をはかる。ここにも「かせいだ」お金の優先配布
- ③子どもたちの健全な成長を確保するために、医療機関の有機的連携をはかる
- ④周産期医療の充実・向上及び小児科医の安定的な確保を目指す
- ⑤順法精神とりわけ窃盗の罪悪性について中学から教える
- ⑥小樽家庭児童相談所や警察と地域住民の連携などにより、子どもたちの安全安心を確保する
- ⑦市民が使用する公共施設が老朽化しているので、様々な機能を集約した施設に統合する。
その際には、子どもたちが屋内で遊べる施設も併設する。
- ⑧公園の充実をはかる
- ⑨キッズニアの誘致を検討する
- ⑩子どもたちが交通事故にあわないような街づくりと交通事故死ゼロを目指す。

6 後志19町村との協力関係で小樽も賑わい

(各論6)

※新広域行政の推進で後志・小樽の未来を切り拓きます。

①新広域行政（広域圏構想）の推進

まず、産業物処理事業に続き、他の分野でも連合組織づくりで、行政サービスの維持強化（とりわけ北後志町村との連携強化をはかる）

②小樽が有しているサービス提供で、親密度の向上

札幌へ流れている需要の取り込み

③情報の整備と発信で、小樽になくて後志にあるものを小樽へ

後志になくて、小樽にあるものを後志へ

④インバウンド（訪日外国人）を後志全体に波及させるための連携強化

⑤JR山線の存続をはかる

⑥中小企業家同友会水産部会と協力・協同して水産加工業の発展をめざす

⑦小樽・後志定住自立圏構想を発展させる

⑧漁業（主に沿岸漁業）と農林業の推進をはかる

⑨高規格道路の延伸をすすめる

⑩新幹線の開業を踏まえた施策の検討をすすめる

⑪小樽市内に後志19町村の小樽連絡事務所を設置し機動的な情報交換をする

7 未来に羽ばたく街・小樽（各論7）

※泊原発を廃炉にして、歴史と文化が香る、住みやすく暮らしやすいバルアフリーの街を目指します。

- ①泊原発を廃炉にして、子どもたちに原発を残さない
- ②コンパクトシティの着実な準備で省エネ、ローコストの街づくりをめざす
- ③市民が参加できる「小樽未来研究会」（仮称）を設立し、市政に反映させる
- ④長期的視野での人材の育成をはかる
- ⑤社会的弱者の「居場所づくり」を通じて再チャレンジの後押しをする
- ⑥介護施設等の人員の確保及び老老介護の支援
- ⑦高齢者の未病のための生活改善やスポーツ・趣味・娯楽の充実をはかり医療費の増大を抑制する（健康寿命を延ばす）
- ⑧喫煙率の低下を促進する（数値目標全道（市町村）で一番低い喫煙率を目指す）
- ⑨高齢者パスの充実をはかる
※高齢者が外出することで、健康の増進と市中の人出を増やし、市内の賑わいの一助となる
※具体的には午前9時から午後5時までは特に安くすることによって通学・通勤時の混雑解消をはかる
- ⑩エネルギーの地産地消をすすめる（朝里ダムの活用、小水力発電、排雪の活用）
- ⑪情報公開を高める。（市役所内の風とおしを良くし、透明性を高める。）
- ⑫各種申請書類（市役所対応）の簡素化を図る
- ⑬町内会の事務軽減に資する対策を立てる
- ⑭水道料金の減額
- ⑮住みよい環境作りに最大限の努力をする
※具体的には市街地全体のバルアフリー化や横断歩道の歩者分離、歩道橋の撤去（横断歩道の新設）等をすすめる
- ⑯できるだけ容器をプラスチックからガラスにする運動をすすめる
- ⑰生ごみの活用をはかり、ごみの減量をめざす
- ⑱電柱の地中化等、大災害に強い街づくりをめざす
- ⑲歴史的建造物や縄文遺跡の忍路環状列石など貴重な遺産を活用する
- ⑳文学者、美術家、写真家など芸術文化の歴史と伝統を活用する
- ㉑財政再建で健在財政の市政を実現する

8 海と港湾の街・小樽（各論8）

※ 北前船から続く歴史ある港湾都市・小樽を全国・全世界に発信します

- ①市民も楽しめる運河クルーズや近海クルーズを支援する
- ②観光と共に、市民が活用できる、海と港湾の関連施設の改善
- ③マリンスポーツの振興
- ④国立小樽海上技術学校の存続発展をはかる
- ⑤近隣諸国との海洋交通の定期化をめざす

※とりわけ、ロシア沿海州及びサハリンとの交流、交易を活発化させる

- ⑥貴重な海産資源を守り増殖の調査研究をする

9 新・小樽市民憲章をみんなで作る (各論9)

※53年前（昭和40年4月1日制定）に制定された市民憲章を現代にあったものに市民全体で作り上げましょう！

※市長公約として選挙にあたって公約にないことで市民に負担を与えることはありません

※用語解説

安全＝提供する側の責任を指します

安心＝安全な商品・サービスの提供を受ける利用者・消費者の意識

以 上